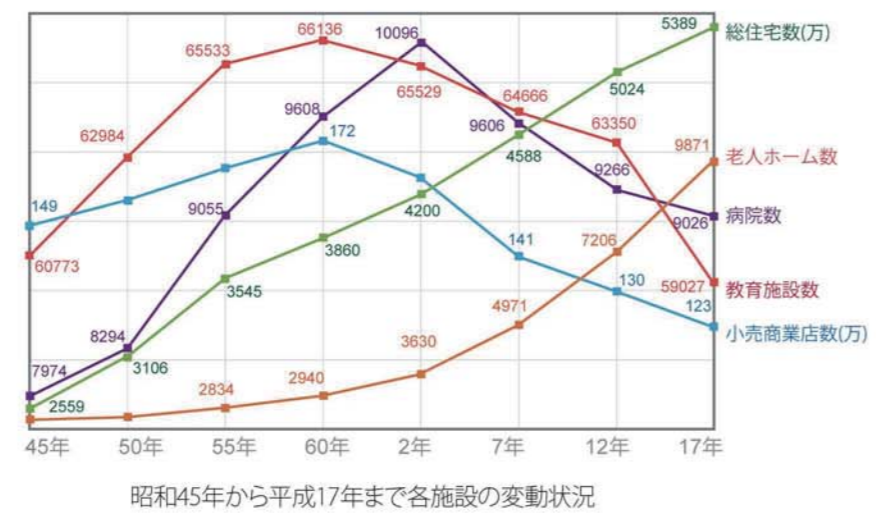
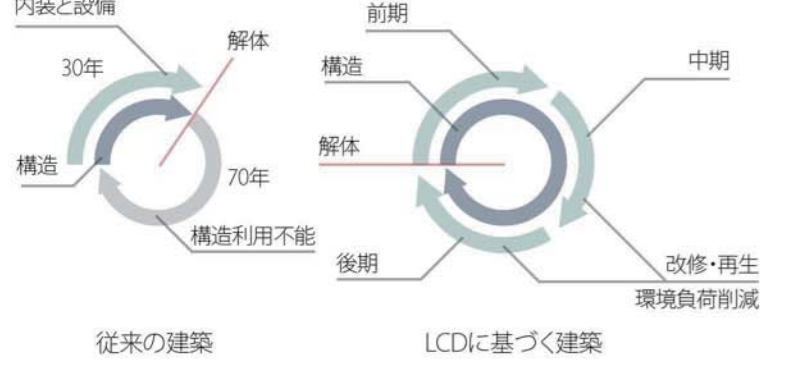




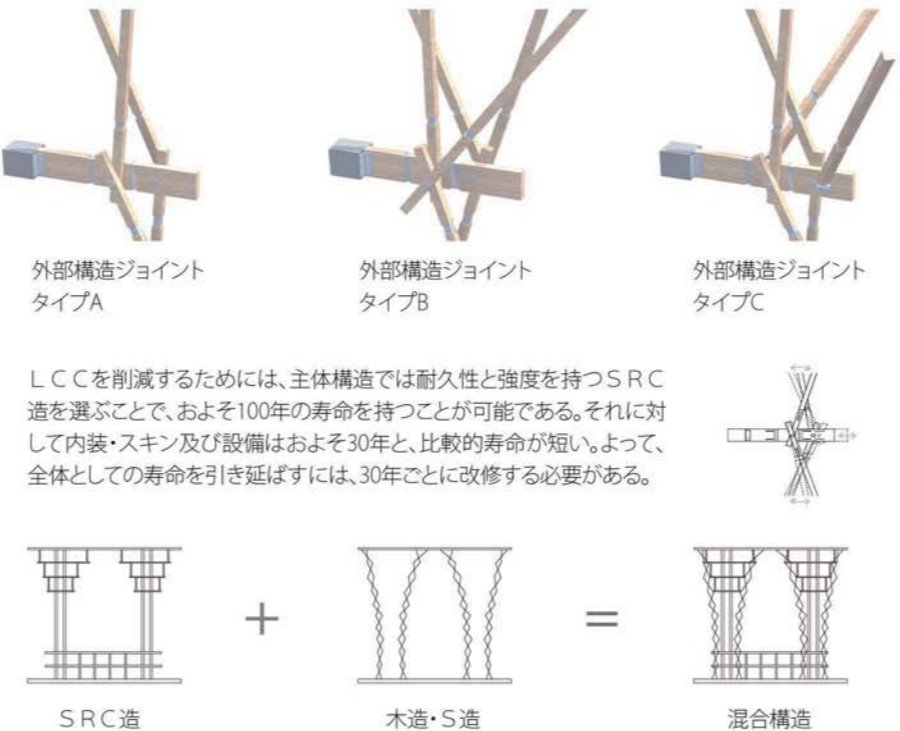
ウロボロス -複合ビルライフサイクルデザイン (LCD)-

ウロボロスとは、自らの尾を噛んだ円形の蛇を図案化したものであり、古代から「死と再生」や「永続性」など、始まりも終わりも無い完全なものとしての象徴的意味を持っている。将来の建築はウロボロスのように、自ら再生しながら長い寿命を持つのではないだろうか。

いまや人間社会は、技術の著しい発展に伴い、自然環境に基大な被害を与え続けている。人によって生み出されるごみの中で、建築ごみはほぼ三分の一を占めている。長寿命建築が建物のライフサイクルコスト(LCC)を削減することによって、自然に対する被害を最小限に留められることが明確である。



少子高齢化による教育施設の減少や老人ホームの増加、バブル経済による店舗数の減少など、社会施設にも次第に変化が見られてきた。長寿命建築はそういった変化に対応できるように、適応範囲を拡大する必要がある。よって、この建築には可動構造の使用が最も適していると考えられる。



LCCを削減するためには、主体構造では耐久性と強度を持つSRC造を選ぶことで、およそ100年の寿命を持つことが可能である。それに対して内装・スキン及び設備はおよそ30年と、比較的寿命が短い。よって、全体としての寿命を引き延ばすには、30年ごとに改修する必要がある。

- 🏠 居住空間
- 🛋️ 休憩空間
- 🍽️ レストラン
- 🎓 教育施設
- 🌳 緑化空間
- 🏢 商業施設
- 🏊 スポーツ
- 🌳 オープンスペース
- ⚙️ 建築設備
- 🏥 医療施設
- 🏢 オフィス
- 🏠 福祉施設

